



まなパソコン道場

第73回

紙面記載の画面は
Windows7+Office2013
操作環境によっては表示
が異なる場合があります

白帯級
初級レベル

茶帯級

中級レベル

黒帯級

上級レベル

茶帯級

関数のセンスを磨く！ Excel古典テクにチャレンジ♪

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3						
4						
5						
6						

もう20年以上前になるが、Windows95やWindows98SE、Office95やOffice97は私たちの仕事や生活に劇的な変化をもたらしたと言っていい。しかしながら、初めて触る表計算ソフトに誰もが悪戦苦闘しながら覚えたものだった。

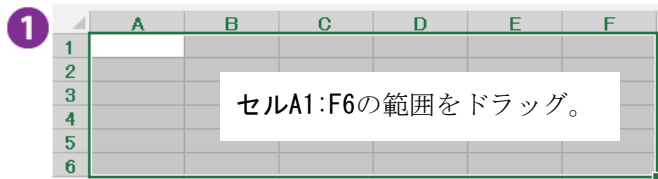
左図をみてみよう。当時Excelマニアの間で話題になったのが関数と条件付書式で実現したこの「市松模様」だ。何より画期的だったのが、手作業で色を塗るのではなく関数と数式で一気に解決できたという点で、Excelはこんなこともできるのかと感心したものだ。デザイン的に実用されることはほぼ無いと思うが、Excelを学ぶ上で重要な一例だ。温故知新！さあ原点に戻ってチャレンジしてみよう♪

考え方

- ・列はA、B、C・・・と表示されるが番号でも取得できる
つまりA=1、B=2、C=3・・・とカウントできる
- ・市松模様を表としてとらえると、「列番号+行番号を足して2で割ると余りは必ず0か1となる」

考え方から導いた関数と書式

- ・列番号の取得は、**COLUMN**関数
- ・行番号の取得は、**ROW**関数
- ・除数で割った余りを求めるには、**MOD**関数
- ・条件付書式で「余りが0なら緑の色をつける」

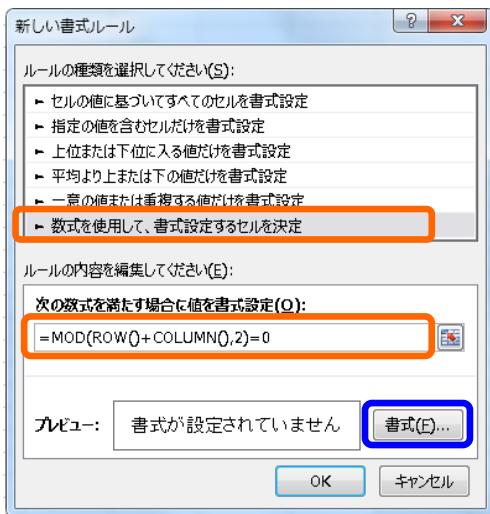


- 2 関数を入力したら①の[新しい書式ルール]ダイアログ右下の[書式]ボタン→[セルの書式設定]→[塗りつぶし]タブ→背景色で[緑]を選択→OK→OK。



そのまま[ホーム]→[条件付書式]→[新しいルール]→でてきた[新しい書式ルール]ダイアログの[数式を使用して書式設定するセルを決定]を選択し、下の枠内に以下の関数を入力。

$$=MOD(ROW()+COLUMN(),2)=0$$



ROW()+COLUMN()
行番号と列番号の合計
=MOD(数値, 除数)
数値(合計)を除数で割った余りを返す

※例えばセルA3の場合は、行=3、列=1なので(3+1)÷2となり、余りは0だ。この時の塗りつぶしを設定する。

- 3 結果として、(行番号+列番号)を2で割った余りが0の時は緑色で塗りつぶし、そうでない(=余りが1の時)は条件に合致しないので白いままの条件付書式になった。

	A	B	C	D	E	F
1						
2						
3						
4						
5						
6						

最後に列幅を調整したら完成だ。
考え方を関数や数式に落とし込む！
この発想が重要。さあ出来たかな？

- 『まなびかんニュース』の主な配布場所：まなびかん(生涯学習センター)・市役所・行政センターやコミュニティセンターなどの公共施設をはじめ市内のJR・京急各駅、主な郵便局や金融機関、医療関係機関などに置いてあります。
- 配送事情・施設の都合などにより、1日に配架できない場合があります。